

## 平成21年度事務事業評価シート (20年度実施事業分)

事業番号		05 01 05	中期総合計画主要施策番号		3-02	担当課	部・課	衛生部 医療政策課		
事業名		広域災害・救急医療体制整備事業					内線	2620		
							E-mail	iryo@pref.nagano.jp		
事業の概要等	事業の目的	・救急・災害・周産期医療に係る情報を収集し、県民、医療機関、消防機関に提供することにより、救急・災害・周産期の医療提供体制の整備を図る。 ・医療機関の機能に係る情報をインターネット等を通じて県民に提供することにより、県民の適切な医療の選択を支援する。								
	事業の必要性	[現状(事業の目的との間にどのようなギャップがあるか)] ・救急医療について、傷病者の搬送時に、医療機関の空床情報を消防機関が把握できる体制の整備が課題。 ・災害医療について、他県を含めた災害拠点病院等の被災状況、傷病者の受入状況等を把握できる手段の確保が課題。 ・県内の医療機関について、中立的、網羅的な情報を県民に継続して提供するシステムの運用・充実が課題。 [原因分析(ギャップが発生している原因は何か)] ・医療機関の救急医療情報を消防機関へ提供するシステムや、他県を含めた災害医療情報を一括して収集・提供するシステムについて、病院や団体が単独で構築・運営することは困難。 ・医療機関に係る中立的、網羅的な情報を県民に継続して提供するシステムを、団体等で単独で構築・運営することは困難。 [課題の特定(事業の実施により解決しようとする課題は何か)] ・県が救急・災害・周産期医療に係る情報を収集し、医療機関、消防機関に提供するシステムを運営することにより、救急・災害・周産期の医療提供体制の整備を図る必要がある。 ・県が医療機能情報を県民に提供するシステムを運営することにより、県民の適切な医療の選択を支援する必要がある。								
		事業内容	救急・災害・周産期医療に係る情報及び医療機関の機能に係る情報を収集・提供する。							
		実施期間	S59 ~	根拠法令等	医療法、救急医療対策事業実施要綱					
	成果と達成状況	事業の目指す成果		達成度(期待どおり)の判定基準(H20)			達成状況		評価	
・救急・災害・周産期医療に係る情報の収集及び提供による、救急・災害・周産期の医療体制の整備を図る。 ・医療機能情報の収集及び提供による県民の適切な医療選択を支援する。		・救急医療情報については、医療機関が入力した応需情報の消防機関による随時の利用を促進する。 ・医療機能情報については、県民によるアクセス数を増加させる。			・救急医療情報については、医療機関による応需情報の更新がリアルタイムでないため、消防機関による情報の利用が低調である。 ・医療機能情報については、県民によるアクセス数が前年度比で増加した。		a.期待以上 b.期待どおり c.やや下回る d.期待以下			
事業コスト	区 分		単位	19年度	20年度	21年度(当初)	20年度の概要			
	最終予算額 (A)		千円	66,385	85,501	51,645	国庫・県単	国庫・県単		
	決 算 額 (B)		千円	64,299	77,337		実施方法	直接、委託		
	B(H21はA)のうち一般財源		千円	44,671	59,055	37,210	歳出節別内訳等	役務費:2,174 委託料:20,636 使用料及び賃借料:62,691		
	概 算 人件費	従事する職員数	人	0.10	0.10	0.10	(単位:千円)			
	概算事業費 (B(H21はA) + C)		千円	65,013	78,052	52,360				
事業実績	内 容		単位	19年度	20年度	21年度(予定)	左記以外の20年度の実績			
	県民による利用(アクセス数)		回	450,168	528,000	619,000				
	消防機関による利用(アクセス数)		回	13,242	13,500	13,500				
	医療機関による利用(アクセス数)		回	143,270	144,000	144,000				
事業の課題	区 分		判 定 ・ 説 明							
	事業のニーズの変化		増加	横ばい	減少	判定の説明	・県民のシステムへのアクセス数は増加しているが、消防機関の救急医療情報の利用は低調。 ・医療機能情報については、医療法により県に提供が義務付けられており、県の関与を見直す余地はない。 ・救急医療情報については、情報の即時性の改善等により、有効性を高める余地がある。			
	県の関与を見直す余地		余地なし	当面余地なし	余地あり					
	有効性を高める余地		余地なし	当面余地なし	余地あり					
	効率性を高める余地		余地なし	当面余地なし	余地あり					
	課題の総括		・救急医療情報については、医療機関による応需情報の更新がリアルタイムでなく、消防機関による情報の利用が低調であるなどの課題があるため、システムの運用方法について検討する必要がある。 ・医療機能に係る情報提供については、医療法による「医療機能情報提供制度」に基づく情報提供システムの円滑な運用を引き続き図る必要がある。							